

## 誓いの言葉

ここに集いし二十歳を迎えた一同を代表して、御礼と誓いの言葉を申し上げます。

はじめに、本日は、私たちが大人としての第一歩を踏み出すにあたり、このような盛大な式典を開いてくださり、誠にありがとうございました。また、先ほどは、上田市教育委員 木口博文 様をはじめ、多くの皆様からお祝いや激励のお言葉を賜りましたことに心より感謝を申し上げます。

私たちが、二十歳という人生の節目、大人としての門出を迎えることができましたのは、温かい目で見守ってくださった地域の皆様、私たちを導き、御指導いただいた先生、切磋琢磨してきた仲間たち、そして、時に厳しく、時にやさしく育ててくれた家族のおかげであると心から感謝いたします。

さて、最近ようやく落ち着いてきた感のある新型コロナウイルス感染症ですが、私たちが、中学生、高校生の時は大変な猛威を振るっていました。短縮された卒業式、休校に次ぐ休校、友人たちとの交流や部活動の制限など苦労したことが数多くありました。しかし、その経験を経て、当たり前のことを当たり前に行うことの幸せが、どれだけ尊いことかを知ることができました。コロナ禍が過ぎ、この当たり前に行うことの大切さを心から実感しています。

私たちが中学校を卒業してから早や5年になります。私たちの中には、現在、就職して仕事に奮闘している者もいれば、学業に励んでいる者など、皆、様々な立場で頑張っています。

「みんな、中学生の時に思い描いた「二十歳」に自分自身を近づけることはできたかい？」

私は、現在、小学校の頃から抱いている夢に向かって、日々仲間と共に学び、進み続けています。思い通りになれた者は、想像の自分のさらに上を、まだ理想の自分になっていない者は、足りない部分を見つけて補う努力を。これらができるのが「二十歳」なのだと思います。

情報通信技術が発展し、特に私たちの世代はその恩恵を最大限受ける一方で、少子高齢化による人口減少や自然災害の多発、物価変動、地政学的な緊張など社会経済情勢の変化は著しく、まさに激動の時代となっています。そして、この時代だからこそ多様な価値観も生じています。この変化と多様性の時代で、それぞれが違った個性を持ち、自分だけが持つ強みを理解していれば、叶わない夢はないと私は思います。

人と異なる視点、新しいアイデア、自分にしか語れないことなど、今、内に秘めているものを存分に活かし、感謝の心を忘れず、この時を大切にしながら、自分らしく、社会で活躍していくことを私たちはここに誓います。

結びに、今回、二十歳を祝う式の開催にあたり、御尽力いただいた真田地域教育事務所の皆様、本日、御列席いただいた来賓各位及び関係者の皆様に深く感謝を申し上げ、簡単ではございますが、「誓いの言葉」とさせていただきます。

令和7年1月12日  
真田中央公民館会場  
(真田・菅平中学校区域)  
成人代表 宮原健